

# 社長退任にあたって

社長 CEO  
沖津 雅浩



本日の取締役会において、今後の執行役員体制を決議し、私は3月31日をもって社長CEOを退任します。後任には、専務CBDOの河村氏が就任し、私自身は今後、副会長として河村新社長をサポートする役割を担います。

2024年6月に社長に就任して以来、約2年間にわたり、シャープの業績改善に共に取り組んでくれた全ての社員の皆さんに、改めて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

この2年を振り返ると、社長就任後、鴻海と連携を密に取りつつ、ブランド事業を主軸とした事業構造の確立に向け、「デバイス事業のアセットライト化」に取り組み、本年2月に公表したディスプレイデバイス事業の構造改革の方向付けをもって、これに一定の区切りがつかしました。

さらに、昨年5月に公表した中期経営計画以降は、ブランド事業への投資拡大、AIをはじめとする技術開発の強化、EVやAIサーバーといった新規事業の取り組み加速、さらには、新たなコーポレートスローガンの制定など、今一度、シャープブランドを世界で輝かせるための布石を打ってきました。

そして、業績面においても、昨年度は3年ぶりの最終黒字を達成し、今年度も期初の公表値から2度の上方修正を行うなど、堅調に推移しています。加えて、財務基盤の改善も想定を上回るペースで進展しており、これら一連の取り組みを通じて、今後の再成長に向けた確かな基盤が整いつつあります。

しかしながら、中期経営計画公表後わずか1年の間に事業環境が激変しており、

当社を取り巻く足元の状況は想定以上に厳しさを増しています。こうした中、当社が今後、持続的に成長していくためには、ブランド事業のグローバル拡大とディスプレイデバイス事業の高付加価値化を一段と強化することはもとより、将来の飛躍に向けた新規事業を、これまで以上のスピード感をもって具体化し、シャープブランドをより一層強化していくことが最も大切です。

こうした考えのもと、その実現に向けた事業推進体制について検討を重ねた結果、次の成長ステージを託すにふさわしいリーダーとして、河村氏にバトンを引き継ぐことが、今後のシャープにとって最適であるとの判断に至りました。

河村氏は、欧州統轄会社および米国販売会社の責任者を歴任するなど、豊富な海外事業経験を有するとともに、ビジネスソリューション領域の事業責任者として、全社の業績を牽引してきた実績があります。さらに現在はCBDOとして、新規事業開拓の最前線に立ち、次代の成長に向けた取り組みを力強く推進しています。河村氏であれば、必ずやシャープをここから「再成長」へと導いてくれるものと確信しています。

2026年度、いよいよ当社は新たなステージへと本格的に踏み出します。河村新社長のもと、全社一丸となって、成長軌道を力強く歩んでいきましょう。そして、「ひとの願いの、半歩先。」を実践し続けることで、シャープならではの価値を創出し、新たな文化をつくり上げていきましょう。

社員の皆さん、2年間、本当にありがとうございました。